



目線の高さ

今年もプロ野球のドラフト会議の時期になりました。今年は 10 月 23 日に開催されるそうです。

毎年、将来を嘱望された若者が各球団の指名を得て、満面の笑みや安堵の表情を浮かべる姿がテレビに映し出されます。

この様子を見て思うことは、彼らの目線の高さです。指名されたということは、プロ野球選手という自らの夢を叶えたということです。これがプロ野球選手になれたというゴールの選手と、プロ野球選手として実績を残そうというスタートの選手では、1 年後、2 年後の選手としての価値が変わってくるように思えます。

それは、ドラフト 1 位で入団した選手が必ずしも活躍するとは限らないからです。日米通算安打記録を持ち、メジャーリーグの殿堂入りした選手は、日本のドラフト 4 位で 2 軍スタートでした。また、昭和の名選手はドラフト外での入団も珍しくありませんでした。

何事も自分の目標をどこに向けるかで、何をするか行動が変わってきます。4 月に立てた目標に今一度目を向けて、自分の目標を見直すと、今の自分の修正点が見えてくると思います。

県展

先日、長崎県美術館で開催された「第 70 回県展」に出かけてきました。書や絵画、デザイン、写真、彫塑などの作品が展示してありました。

美術への造詣は深くない素人ですが、どれも素晴らしい作品だったと思います。その中でも特に書に関しては、何と書いてあるかわからないというのが正直なところでした。

しかし、一見すると殴り書きのように見えるその書は、実のところ卓越した技巧によって書いてあるのだろうということは理解できました。そして、その技巧の支えになっているのは、たしかな基礎基本ではないかとも感じました。どんな達筆な方も初めからその域に達していたのではないからです。このことは、他のどの作品にも当てはまることだとも思いました。

匠の技にたどりつくはじめの一步は基礎基本の習得。学校での学びも同じだと思います。